

- 水の逸話を訪ねて…P1  
「蘆刈」大阪府三島郡
- 食材を活かす 水の妙…P2  
「サイダー」
- 水とともに…P5  
「淀川改良工事」
- おもしろ科学実験 水のふしぎ…P10  
「水に浮かぶ絵」

つくってみよう!  
うらのページに、  
この折り紙の  
折り方がのってるよ!

## 水都大阪にふさわしい

## 河川の美観維持のために

江戸時代以降、多くの水路が開削され橋の多さから「八百八橋」とまで言われたほどの水都である大阪は、長い歴史の中で、河川と産業・人・暮らしが結びついて発展してきた。

大阪市環境局河川事務所では、大阪市内を流れる河川のうち、堂島川、土佐堀川、道頓堀川、寝屋川など主要10河川について、河川水面に浮遊している

みなどの収集を行っています。また、本市が行っている道頓堀川等の水辺整備など、河川は市民の憩いの場として広く浸透しており、河川水面清掃の必要性はますます高まっております。



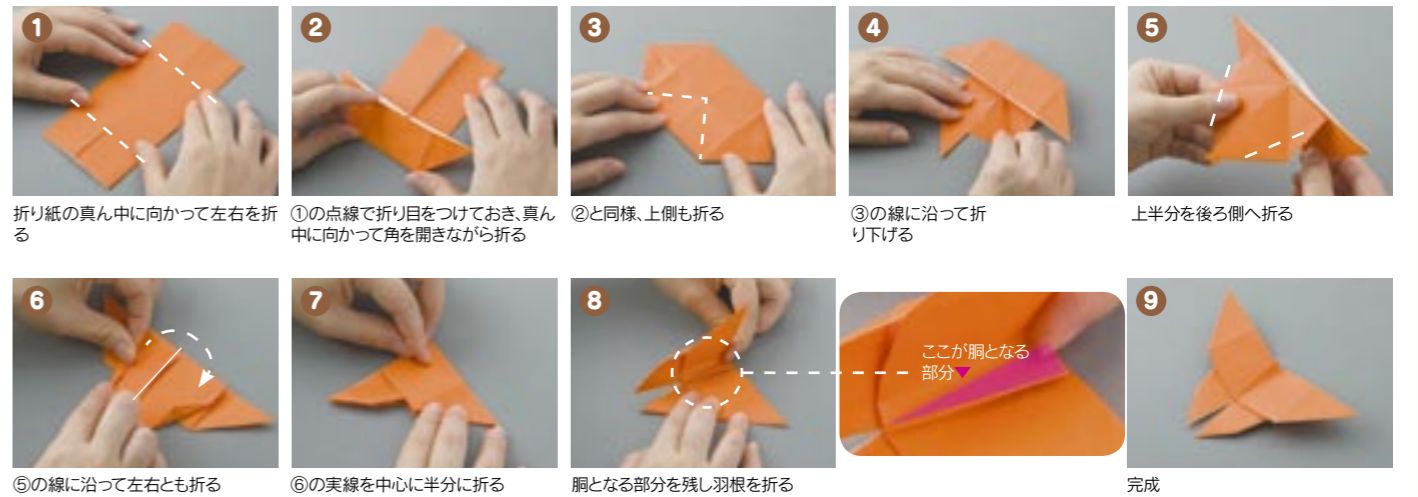
市内河川での水面清掃作業

に喜ばれています。

大阪市環境局事業部業務企画担当 E-mail: ja0006@city.osaka.lg.jp TEL.06-6630-3238

### つくってみよう! 今回の生き物▶ちょうちよ

作者: 新宮文明  
おりがみくらぶ (<http://www.origami-club.com/>) より転載



### (財)琵琶湖・淀川水質保全機構賛助会員(50音順)

計14社(平成21年4月1日現在)

(株)アクアテルス琵琶湖事業部、いであ(株)、(株)オオバ大阪支店、(株)環境総合テクノス、(株)建設技術研究所大阪本社、国際航業(株)関西支社、(株)修成建設コンサルタント、帝人エコ・サイエンス(株)、(株)東京建設コンサルタント関西支店、(株)西日本技術コンサルタント、(株)日建設シビル、(株)日水コン、(株)ニュージェット、パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社

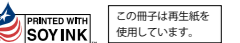


財団法人 **琵琶湖・淀川水質保全機構**  
Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号大阪マーチャントイズ・マート(OMM)ビル13階  
TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036  
ホームページアドレス<http://www.byq.or.jp/>

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もってうるおいのある地域社会の形成と関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWAKO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名付けました。







渡し船は橋本(八幡市)の石清水八幡宮と、その離宮で対岸の山崎にある離宮八幡宮との往来に利用されていました。橋本から山崎方面を望む。

## 蘆刈

# ひとりでその洲の剣先の方へ歩いて行って 蘆みぎわの生えている汀のあたりにうずくまった。

(「蘆刈」 谷崎潤一郎著より)

谷崎潤一郎が昭和7年に発表した「蘆刈」。耽美的傾向で知られる作者が、古典主義傾向へ作風を転換させた時期の作品です。名月の光の下にひろがる蘆刈で、主人公である「わたし」が一人の男と出会います。瓢箪を取り出し、酒を勧めてくるその男は、自分の父親と二人の女性をめぐる、不思議な身の上話をはじめます。未亡人のお遊に恋し、その妹もお静をめぐった父親。姉妹と父親、三人の奇妙な関係が語られる中、この男はだれの子ともなのか、お遊は今でも生きていたのか、多くの謎を残し、男は忽然と姿を消します。物語の舞台となったのは、淀川三川合流点の中洲。明治33年の桂川改修でできたこの中洲(背割堤)は、作品が書かれた昭和初期には、当時、山崎から橋本へ通っていた渡し船の乗り継ぎ場となっていました。渡し船は昭和37年に姿を消しましたが、今では宇治川と木津川との間にある。背割堤地区が桜の名所として知られており、花見の時期には川の流れと桜を楽しむ大勢の花見客でにぎわいます。

## 食材を活かす 水の妙

# サイダー

## 漱石も愛飲した「平野水」 天然の炭酸水がルーツ

「平野水がくんくんと音を立てるような勢いで、食道から胃へ落ちて行くときの心持ちは痛快であった(夏目漱石「思い出す事など」)。

胃弱に悩まされていた漱石は、胃を労わって「平野水」を愛飲していました。

平野水とは兵庫県川西市平野の鉱泉からわき出した天然炭酸飲料水の商品名。後にこの平野水に砂糖、香料を加えた飲み物「サイダー」が作られました。「シユワシユワ」とした炭酸独特のさわやかな風味は、自然の恵みから生み出されていたのです。

### 平安時代から炭酸湧出 明治時代に飲料へ利用

平野の炭酸水が歴史に登場するのは平安時代ごろから。約1200年前に書かれた「住吉大社神代記」には、猪名川の支川である塩川が「潤水が流れる川」と記されています。潤水とは炭酸水のこと。江戸時代にはその水を利用して、平野の地は有馬と並ぶ温泉地としてにぎわいました。

日本初の飲料水工場が平野に設立され、平野水が販売されたのは明治17年(1884)。炭酸水がミネラルを豊富に含んだ硬水で



工場跡地の脇を流れる塩川。現在も川の底からは炭酸ガスの気泡がわき出しています



源泉から吸い上げた天然ガスをポンペに充填している様子 (写真提供・アサヒ飲料株式会社)



大正時代の工場内部。きれいに整理整頓されており、当時から衛生に配慮していたことがうかがえる (写真提供・アサヒ飲料株式会社)

の大正天皇の御用品にも指定されます。平野水に味と香りをつけた「平野シャンペンサイダー」は、明治40年(1907)に登場し、昭和43年(1968)、「三ツ矢サイダー」と改称します。

平野水を原料にしたサイダーは、大正時代末から徐々に少なくなり、昭和30年ごろには製造が中止されました。現在、三ツ矢サイダーを全国4ヶ所で製造するアサヒ飲料株式会社の広報担当者は、最もサイダーの風味を引き出させるために、水を6つの層で入念にろ過し、硬度を全工場で25度に保っています」と水へのこだわりを語ります。平野水誕生から約130年、この水への深い愛着が、昔と変わらないさわやかな味を引き立てているのです。





## 「BYQネットワークの集い2009」を開催しました!



西村事務局長の開会あいさつ

2月1日(日)、「BYQ ネットワークの集い2009」を水のめぐみ館アควア琵琶・ウォーターステーション琵琶(滋賀県大津市)で開催いたしました。同時開催として、『瀬田川リバークルーズ～瀬田川の歴史と自然を知ろう!!～外輪汽船“一番丸”で巡る瀬田川』を午前中に実施。リバークルーズには70名の方が参加され、ガイドさんの案内を受けながら瀬田川の自然と歴史文化に触れました。集いは平成17年から連携・交流を深める場として開催しており、5回目となる今回は、水のめぐみ館アควア琵琶、ウォーターステーション琵琶の協

賛を得て滋賀県で開催することができました。集いには、日頃BYスタンプラリーに協賛していただいている住民団体の方やその活動に参加された方、WAQU<sup>2</sup>調査隊として活動している方、ジュニアリバースクールや自然観察会などのイベントに参加された方など約170名が一堂に会しました。イベント体験報告会やアควア琵琶の中尾氏のお話、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの石川先生のご講演などを通じて、情報交換を行ったり、知見を広めたりすることができ、盛況のうちに終わることができました。

### 報告会「体験を通して発見した水辺の魅力」

報告会には、BYスタンプラリーやWAQU<sup>2</sup>調査隊などのBYQの各イベントに参加していただいた方、またBYスタンプラリーでイベントを開催していただいた協賛グループの方、琵琶湖河川レンジャーの方など7組の方々に、体験を通して発見した「水辺の魅力」を発表していただきました。小学生の発表者からクイズが行われるなど、発表者が感じた水辺の魅力をみんなで楽しみながら共有しました。



#### — お話し —

びわ湖のサカナたちの現状とアควア琵琶の取り組み



水のめぐみ館アควア琵琶  
環境担当技術者  
中尾 博行氏

#### — 講演 —

琵琶湖の豊かな恵みを未来につなげるためにわたくしたちができること



滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
総合解析部門研究員  
石川 俊之氏

### 体験コーナー「水のふしぎを知ろう!」

体験コーナーには、BYスタンプラリー協賛グループと水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶から4団体がコーナーを設置。みなさん楽しくにぎやかに体験コーナーを運営していただきました。



体験コーナー1  
園芸用の土をつかって水の浄化実験をしよう(担当:草津塾)



体験コーナー2  
貝による水質浄化&ボトル・アクアリウム(担当:NPO法人やましろ里山の会)



体験コーナー3  
にしよど釣り堀体験(担当:西淀自然文化協会)



体験コーナー4  
水の中の景色をつくろう(担当:水のめぐみ館)

### パネルによる活動発表

BYスタンプラリー協賛グループなど21団体のの方に、パネルやポスターなどを使って活動発表をしていただきました。



#### 同時開催

瀬田川リバークルーズ  
～瀬田川の歴史と自然を知ろう!!～  
外輪汽船“一番丸”で巡る瀬田川



集いに参加して下さったみなさんから  
こんなご意見をいただきました。

#### 【良かったこと】

- ・色々な取り組みをされているグループがあることを知ることが出来た
- ・多くの人が各地で活動していることを知った
- ・はじめて瀬田川より近江大橋まで見た兩岸の風景は、道路より眺めたそれよりスケールがあり、又ガイドさんの説明から知識が深まった
- ・船上でいるんな鳥が見られてよかった!
- ・中尾氏、石川氏の講演は良かった。内容がくどくどせず、わかりやすく話してくださってよかった
- ・発表会では、小学生を含め、低年齢層も関心を持って活動していることを心強く思った
- ・体験を通じて具体的な活動を聞いたこと(琵琶湖河川レンジャーの活動は素晴らしい)

#### 【がっかりしたこと】

- ・琵琶湖の空気循環があまり行われなくなったこと。ショックでした
- ・大きな地図(流域マップ)は広げてあるだけで何のため?
- ・映像ホールで開会時間が来ると、パネル(展示)の前は一人一人いなくなった(2室に分かれていたからか? 全ての人が読んだからか?)
- ・毎回似たり寄ったりの展示などですっかりがっかり

#### 【学んだこと】

- ・地元のことを詳しく説明されて知識が増えたこと
- ・琵琶湖と瀬田川の境界
- ・歴史と洗堰の由来
- ・水害について
- ・琵琶湖の知識
- ・先ず参加すること、実践すること
- ・2つの講演内容、特にプラスチックゴミの撒き散らし厳禁のこと
- ・生態系や水質についてわかりやすく説明していただいたこと
- ・子供達の目で見えたものの捉え方に感心するものがある

#### ◎体験コーナーで

- ・バックテストでいろんなことがわかった
- ・水の浄化実験。目の前で水が浄化されることは勉強になった
- ・エビやカワナなどのことがよくわかりました
- ・カワナがいろいろとがんばっていること
- ・ピンでカワナ、小エビを育てられるのは驚きでした



# 流域住民を水害から救った、 河川工事史上屈指の大事業

古くから水害による被害で幾度となく流域住民を悩ませてきた淀川。現在、雄大に流れるその姿には、かつての「暴れ川」としての面影はありません。淀川が現在の流れに形づくられた淀川改良工事竣工から今年で100年を迎えました。



水位に差がある旧淀川と新淀川を行き来する船の航路を確保し、また旧淀川に流れ込む土砂や水量を制御するため、明治40年に建設された毛馬閘門。現在の毛馬閘門は昭和58年に建設されたもの。

## 改良工事実現に向けた 官民一体の働きかけ

「淀川の歴史は洪水との闘いの歴史」とも言えるほど、淀川は古来よりたびたび氾濫を繰り返してきました。

中でも明治18年に発生した洪水では、現在の枚方市から大阪市都島区までの淀川沿いの町村と、大東市・四條畷市の合計113町村が水没。浸水戸数7万戸以上、被災者は約27万人にのぼる大災害となりました。

この洪水をきっかけに流域では淀川改修に向けた機運が高まりましたが、当時の治水政策は「利水」が主であり、政府は洪水対策を中心とする新しい治水計画に乗り出そうとはしませんでした。

それでも、大阪府議会議員だった大橋房太郎が熱心な改良工事促進運動を続けた結果、明治29年に「河川法」が制定され、淀川改修費として約900万円の予算が帝国議会で可決。悲願の淀川改良工事が実

## 現に向けて動き出したのです。 安全・安心をもたらした 「まっすぐな淀川」

改良工事に関する計画は、明治24年から当時の第四区(大阪)土木監督署長沖野忠雄によって進められていました。フランスで先進国の土木技術を学んだ沖野は滋賀県から大阪湾にいたる淀川全体の治水を検討し「淀川高水防禦工事計画意見書」としてまとめ、明治27年、内務大臣井上馨に提出します。

この計画は、相次いで起こった洪水の経験が反映されたもので、瀬田川南郷に洗堰を設けて流量を調節できるようにし、三川合流点付近の工事や枚方の狭窄部の川幅拡張、新淀川、長柄運河の開削などが盛り込まれました。

この中でも最大規模のものが新淀川の開削工事でした。大量の土砂の掘削・浚渫を行うため、日本で初めて大型土工機械が本格的に用いられた工事で、

それまで毛馬で旧淀川(大川)から分かれて西へ流れていた中津川を利用して放水路とし、守口市から下流、海まで約16kmの間を約540m以上の川幅をもつ、ほぼ直線の新しい淀川を開削したのです。

明治29年から10ヶ年の予定で始まった淀川改良工事は、日露戦争の影響で中断の時期もありましたが、明治38年に南郷洗堰(旧洗堰)、一津屋樋門が竣工し、明治39年には巨椋池の分離が完成。明治42年6月、一部の特殊工事を除き、改良工事は概ね完了を迎えたとして、毛馬閘門で竣工式を開催。明治43年に全工事の竣工を告げました。当初、治水目的で始められた淀川改修工事でしたが、新淀川

ができたことで、大正3年には大川との分岐点に長柄起伏堰が完成し、同年、東洋一といわれた柴島水源地も稼働するなど、近隣の利水に与えた影響も大きい工事だったといえるでしょう。

新淀川開削図



## 川と生きる都市・大阪 水都大阪2009を実施

淀川改良工事竣工から100年を迎える今年、8月22日から10月12日までの約3ヶ月にわたり「水都大阪2009」が実施されます。これは淀川改良工事竣工から100年にあたる2009年を「水の都」発展のシンボルイヤーと位置づけて開催されるもので、中之島をはじめとする大阪市内を会場に、「川と生きる都市・大阪」をテーマに、アート展示や市民参加型など各種プログラムが企画されています。





琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(Biyoセンター)は、琵琶湖・淀川水系の水環境改善のために、自然の浄化能力を生かした水質改善など、新たな水質浄化技術の研究開発の場として、また、水環境改善に対する取り組みについて、多くの方々に知ってもらうための場として設置された施設です。



①葉山川美化エコフォスター ②葉山川下流の植物などの自然観察会 ③笠縫東小学校の児童に魚獲り体験学習の支援も行っています ④葉山川河口での冬の野鳥観察会 ⑤活動の成果をまとめた「葉山川ノート」を発行



## ●BYスタンプラリー協賛グループ紹介

### 草津塾

「楽しんでやる」をモットーに

地域との連携で水辺環境の再生を目指す

■今回は運営委員長兼事務局長の田中俊雄さん及びメンバーの方にお話をうかがいました。



BYスタンプラリーとは、水質改善活動に取り組んでいる協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、記念品をもらう新しいタイプのスタンプラリーです。これまで2,200人の方がご応募くださいました。また協賛グループは、58の市民団体と20の水関連施設で構成されています。(平成21年2月末現在)

1997年に(財)草津市コミュニティ事業団の呼びかけで発足した草津塾。2000年に事業団から独立して以後は、地域の人々との協働でのまちづくりと、子どもたちとの体験学習を実践する市民団体として活動しています。

草津塾は「葉山川グループ」と「エコライフグループ」の2グループからなり、それぞれ「葉山川流域の水質調査、美化、ビオトープづくり」や、「循環型社会の実現を目指して、菜の花の植え付けから収穫、油搾り」といった活動に取り組んでいます。

葉山川グループでは、平成12年に滋賀県の淡海エコフォスター制度に同意し、以来「葉山川美化エコフォスター」として月に一回、草津塾のメンバーと地域の方が一緒になって、葉山川周辺の清掃活動を実施しています。「今こそ平地化

され、遊歩道の整備もされていますが、昔の葉山川は天井川で、地元に住んでいる人にとっては興味のない川だったんです。だから清掃活動を始める前はゴミも多かったですね。ようやく、最近は遊歩道のゴミが減ってきましたけどね」「われわれ自身はゴミを拾うことが目的ではなくて、本来は市民のみなさんに『水環境を守ろう』といった啓蒙活動がしたいんです」と語る田中さん。活動を始めてから、地元で参加してくれる人は数人いるものの「地域とのつながりの不足を感じることも多く、いかに地域の人を巻き込むかがこれからの課題」とも「そのため大学や行政との協働で地域にアピールできる場を持ちたい」と考えているそうです。

私たちを含めて、最近は定年を迎えた団塊の世代がどんどん増えていきます。草津塾はそういう人たちの経験を生かせる受け皿として、一種の生きがいづくりの場という側面も持っているんです。だから、むやみに活動の幅を拡げようとも思わないし『楽しんでやる』ということが一番大事じゃないかなと思いますね。あくまでも自然体な取り組みが、葉山川を地域の誇りとなる水環境へと変えていくのかもしれない。ません。



田中さん(左)とメンバーの方

## 実験リポート

滋賀県立大学環境科学部環境生態学科

准教授 浜端悦治

# 「沈水植物群落の水質浄化機能の評価実験」

琵琶湖では1994年の大湖水(史上最低の水位)マイナス123cmを記録)以後、特に南湖では沈水植物群落の年ごとに回復してきています。そして現在では南湖面積の80%以上の地域で群落が見られるようになっていると言われています。この群落面積の拡大と時期を同じくして水質(透明度、クロロフィルa、TP、TN等)にも改善が見られるようになって来ています。南湖におけるこの水質改善の原因の一つとして水草帯の回復が考えられています。その改善機構については、まだ解明されていません。しかし、オランダの研究者のSchaffelらは2001年のネイチャーに、沈水植物が存在することによって濁りが低下すること



写真1/水路実験の様子(08/7/19)

を説明するモデルを提示しています。その機構として彼らは、沈水植物の密度(植物によって占められた水体積率)がある値(研究者によって15~20~30%の開きがあります)以上になると、魚の感受性が低下し、動物プランクトンの被食圧が低下し、その結果増加した動物プランクトンが植物プランクトンを探食して減少させ、濁度が低下するという生物間の相互作用を想定しています。私たちは大湖水後、なぜこのような勢いで水草が回復してきたのか、そしてなぜ水質が改善してきたのかなどを明らかにしたいと考え、Biyoセンターの水路型浄化実験施設で共同実験を行っています。本紙面では特に「沈水植物群落の水質浄化機能の評価実験」について紹介させていただきます。

長さ24m、幅2m、深さ0.9mの水路に図のような方形区(囲い)を8個沈めました(写真1)。方形区は外側がビニールシートでできており(A)、その内側には魚などの侵入を防ぐための目合い1mmの寒冷紗で作った袋(B)を張ってあります。さらに上面には飛び込んで入ってくる魚や、トンボの産卵などを避けるために袋と同様の寒冷紗を張った覆いをかぶせました。

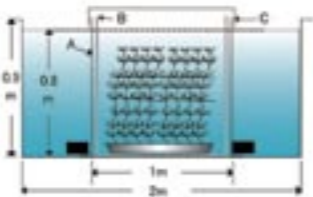


図1/方形区の断面。A:水路の水とを遮断するビニールシート、B:魚の侵入を防ぐメッシュの袋、C:トンボなどの飛来を防ぐメッシュの覆い。

で、自然に生育してくるのを待ちました。水草の採取は7月5日に、水路への植え付けは翌日に行っています。コカナダモは外来種ですが、底まで覆った袋の中の植栽であり、最後には全個体を回収することが可能であるので、生育特性がわかっているこの種類を用いました。水質分析のための水のサンプリングや、動物プランクトンのサンプリングは1~2週間の間隔で、最終日の9月5日までの間に計7回行いました。水草群落が発達し、すでに3回のサンプリングが終わっていた8月4日に

8個の方形区の内、4つには水草を植栽区(4区)、4つには水草を植栽しない非植栽区(4区)のそれぞれ半数にキンギョ15尾ずつを投入しました。そのため魚を投入するまでの3回は水草の有無による水質の変化を4区の繰り返しで、投入後は水草の有無、魚の有無という4つの組み合わせでそれぞれ2区の繰り返しで調査を行いましたことになりました。

現在分析やデータの整理・解析中で、詳しい結果については触れられませんが、魚投入後、水草群落がない場合、水質の悪化が見られるといえることがわかってきました(写真2,3)。



写真2/植栽区に魚を投入しても水の澄んでいることがわかる。



写真3/非植栽区に魚を入れると明らかに濁り、80cm下の底が見えない。



# めざせ! 水アーティスト 水に浮かぶ絵

水に溶けやすい物質はたくさんありますが、油を水に入れてもすぐに分離してしまうように、水に溶けにくい物質もあります。このような水の性質を利用して、みんなが描いた絵を水に浮かべる実験をしてみよう!



## 用意するもの

洗濯のり(P.V.A.を配合しているもの)、水、絵筆、下じき、ドライヤー、トレー、油性ペン  
※水がこぼれることがあります。水でぬれると困る場所では、行わないようにしましょう。



洗濯のりに水を混ぜ、少し薄める



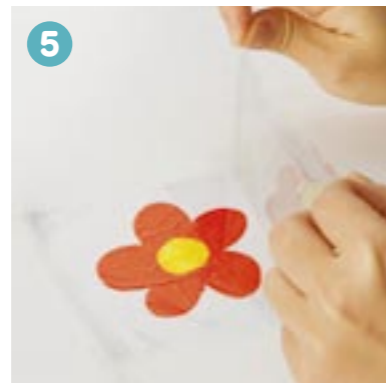
絵筆を使って、①の液を下じきに薄く塗る  
※見えやすくするため、水を着色しています



ドライヤーで乾かし、のりの膜を作る



のりの膜が乾いたら油性ペンで絵を描く  
※すまみができないよう、できるだけ塗りつぶす



のりの膜を下じきからはがす  
※膜が破れないように注意



水を張ったトレーにのりの膜をそっと浮かべる



絵を描いた箇所以外ののりが水に溶け、絵だけが水に浮かびます

## 今回のふしぎワード

### 水に溶ける物質

洗濯のりに含まれるP.V.A.とは「ポリビニールアルコール」という水に溶ける成分のこと。油性ペンの成分は「油」なので水に溶けず、また、水の表面には表面張力という力が働いているので、インクの部分だけが水の表面に残ったのです。今回の実験では絵を浮かべましたが、文字を浮かべたらどうなるかな? 一度試してみよう!

# BYQ INFORMATION

お申し込み・お問い合わせ: (財)琵琶湖・淀川水質保全機構 TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036 ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

## 平成21年度助成のおしらせ

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、琵琶湖・淀川の水質保全に関わる活動に対し、助成を行っています。  
平成21年度は、次の内容で募集します。

### 河川浄化・愛護活動助成

助成対象 / 琵琶湖・淀川流域における

- 水質の保全・改善に関する活動
- 自然生態、親水、水源涵養の機能を保全・改善する活動
- 水環境について知り、理解する活動

助成金額 / 1件あたりの助成限度額は30万円

募集期間 / 平成21年4月1日(水)~5月15日(金)

応募方法 / 応募様式に必要事項を記入の上、必要書類を添えて申請してください。

詳細は、当機構のホームページを参照いただくか、下記にお問い合わせください。

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMMビル13階

電話 / 06-6920-3035 e-mail [kikaku@byq.or.jp](mailto:kikaku@byq.or.jp) ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

## 身近な川の水質を自分で調べてみませんか? わくわくWAQU<sup>2</sup>調査隊 隊員募集中!

BYQでは、平成16年からWAQU<sup>2</sup>調査隊による流域一斉水質測定を行っています。

隊員になって、琵琶湖・淀川流域の水質マップを広げよう!

- 隊員になると、水の汚れが簡単に測定できるキット(バックテスト)を使って、自分自身で、それぞれの近くの川で、同じ日(BYQが指定します)に一斉に調査していただきます。
- 隊員の測定したデータが流域の水質マップになります。

現在の隊員数は355人、420地点で調査しています。流域のどこが汚れていてどこがきれいなのか? 多くの人が隊員となって小さな川にも調査を広げれば、もっと流域のことがわかります。是非皆さんも隊員に!

### 応募方法

- 応募資格: 琵琶湖・淀川流域に住み、水環境に興味がある方
- 応募期間: 随時募集中
- 応募方法: 申込用紙はBYQホームページ(<http://www.byq.or.jp/>)からダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない方は、BYQ・企画開発部へお問合せ下さい。

WAQU<sup>2</sup>調査隊状況(2009年2月末現在)

隊員人数 **355**人

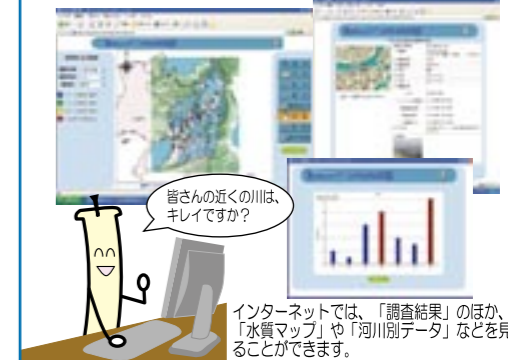
調査地点 **420**地点

もっとたくさんの隊員を  
お待ちしております!!



### インターネットで調査結果が見られるよ!

BYQのTOP画面(<http://www.byq.or.jp/>)の「WAQU<sup>2</sup>調査隊」のバナーをクリックし左端にある「閲覧」バナーをクリックして下さい。



インターネットでは、「調査結果」のほか、「水質マップ」や「河川別データ」などを見ることができます。

## BYQ水環境レポートがインターネットで見られるようになりました!

BYQ水環境レポートは、琵琶湖・淀川流域の水質関連データを一元的にまとめた唯一の資料として、平成5年より刊行し好評を博しています。最新号は平成19年度版(第15巻)、今年度よりインターネットで本編の内容がご覧いただけ、データのダウンロードもできるようになりました。BYQホームページのトップページにバナーがあります。是非ご利用ください。  
<http://www.byq.or.jp/kankyo/BYQ-top.html>

## ご寄付をいただきました

大阪新阪急ホテル、株式会社大丸 梅田店、京都市在住 疏水ホテル様よりご寄付をいただきました。水質保全調査研究開発事業などに活用させていただいております。どうもありがとうございました。